

# 都市再生整備計画

あすかきょうちく  
飛鳥京地区

ならけんあすかむら  
奈良県明日香村

平成25年2月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	奈良県	市町村名	アスカムラ 明日香村	地区名	アスカモリ 飛鳥京地区	面積	527 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 26 年度				

### 目標

- 日本のふるさと『あすか』の地域資源を活用した「もてなし」と「にぎわい」のまちづくり  
 目標1 地域伝統文化を継承するための安心快適な生活環境(防災面・利便性)の創出  
 目標2 道路網の整備等による多彩な交流と快適な周遊観光を可能とする「もてなし」空間の創出  
 目標3 観光産業の拠点及び情報基盤整備による魅力ある「にぎわい」空間の創出

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

##### (まちづくりの経緯)

明日香村は奈良盆地の南東部に位置し、北西は万葉集にも謳われた欽傍山・耳成山・香具山の大和三山と東は多武峰山系に囲まれ、その地貌は高取川や飛鳥川などにより形成された狭長な盆地と谷部を除き、大部分が傾斜地となっており、村面積は2,408haとなっています。6世紀から7世紀にかけての約100年間、一時期を除いて都が営まれ、「天皇」という称号や「日本」という国号が初めて用いられ、日本の律令国家体制が形成された地域であると共に、仏教やその他大陸文化の影響を受けて飛鳥文化が開花した「日本のはじまり」とも言える地域となっています。また、高松塚古墳やキトラ古墳などの数多くの古墳や、欽明天皇陵や天武持統天皇陵、飛鳥川を基底とした文化的景観と地域住民における綱掛神事や伝統行事などの地域文化活動が一体となり、飛鳥時代を偲ばせる歴史的風土が村全域にわたって良好に維持されていることから、昭和41年に高度経済成長期の無秩序な開発を契機に制定された「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」に一部地区指定され、昭和55年には「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」の制定により、住民の理解と協力のもと、現在に至るまで明日香村全域にわたり良好な歴史的風土が維持・保全されています。平成22年には第4次明日香村整備計画を策定し、村の資産である歴史的風土を活用して「古都の風格を育み、住む喜びと新たな魅力を創造する。—明日香を「感じ」「知り」「守り」「育てる」むらづくり」を将来像として、村全域を五感で感じるフィールドミュージアム「まるごと博物館」づくりと、「飛鳥・藤原」として世界遺産登録に向けた取り組みを推進しています。

##### (現況)

平成25年1月現在、人口は約5,900人となっており、平成2年のピーク時(7,560人)から大幅な人口減少とともに、少子高齢化率も年々高まっています。また、明日香法・古都保存法の土地利用規制による経済発展の遅れや空き家の増加、農林業の担い手不足・高齢化による耕作放棄地・放置林、なども増加傾向が続いている状況となっています。

防災面では災害に強い通信体制の整備やインフラ整備が中山間地域で不充分な状況となっているとともに、観光面では先端技術を活用した新たな観光スタイルの構築を目指した取り組みを展開する中で、史跡等の地域資源の有効活用や魅力向上、国際化への対応や道路網の整備など、もてなし・にぎわいの創出に向けて、一層の充実が求められている状況となっています。

本飛鳥京地区においては、飛鳥京跡を中心とした「世界に通用する貴重な日本の歴史資産」が地域資源として多数存在しており、明日香観光のコアエリアとして位置づけられています。しかしながら、その範囲が広範囲にわたることから、関連性を持つそれぞれの歴史資産を繋ぐ道路網や、観光資源が有する本来の価値を伝えるための整備等が不足しており、全ての来訪者が往事を彷彿とさせる歴史ストーリーを体感できる周遊観光の空間を提供できていない状況であり、観光情報についても、「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を目指している中で、海外来訪者をもてなすための情報発信力が歴史資産が持つ本来の価値を鑑みた場合、依然として未成熟な状況となっています。

また、メインストリートである石舞台古墳～飛鳥水落遺跡までの沿道についても、「にぎわいの街」を将来像として目指している中で、少子高齢化や空き家の増加の影響を受け、商業店舗が減少しており、来訪者をもてなすためのにぎわいが衰退しつつある状況となっています。

さらに区域内にある山間部の集落については、連絡と受け継がれてきた地域伝統文化や歴史的集落景観など貴重な地域資源が存在していますが、地域の防災面の不安や利便性の低さから、若年層を中心とした人口流出が発生し、地域資源の存続が危惧される状況となっています。

### 課題

- ①地域資源である集落や地域伝統文化を継承していくために必要な活動人口が、生活環境整備(防災面・利便性)が不充分であるため、若年世代を中心とした人口流出が増加し限界集落化が危惧される状況
- ②観光スポットとして多様な地域資源が点在する中で、来訪者が安全かつ快適に周遊するための道路網の整備が不充分な状況
- ③観光産業の基盤となる魅力ある商業店舗や、地域の魅力を伝え感じる為の交流・もてなし空間の整備が不充分な状況
- ④世界遺産を目指す中で、海外からの来訪者をもてなすための観光情報基盤が不充分な状況

### 将来ビジョン(中長期)

村の地域資源の核である飛鳥京エリアで多様な人々に対して、もてなしとにぎわいの空間充実を図ることと、地域資源のひとつである集落や地域伝統文化を継承することで、「まるごと博物館」づくりを推進し、村の将来像である「古都の風格を育み、住む喜びと新たな魅力を創造する。—明日香を「感じ」「知り」「守り」「育てる」むらづくり」を実現する。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
観光客数	千人	飛鳥京地区内観光施設への観光客数	道路網の整備により観光客数の増加を目指す。	329	H23	350	H26
あすかナビアクセス回数	人/月	あすかナビへのアクセス人数/月	情報発信の充実によるWEBページ等のアクセス増加を目指す。	2,300	H24	2,600	H26
商工業者数	法人等	明日香村の商工業者数	にぎわい空間の創出による商工業者数の増加を目指す。	62	H23	65	H26
地域住民満足度	%	地域住民の防災基盤に対する満足度	防災等のまちづくりによる地域住民の満足度向上を目指す。	23.0	H19	40	H26

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1 地域伝統文化を継承するための安心快適な生活環境(防災面・利便性)の創出 地域資源である地域伝統文化の基底である「集落」を継承していくために、主要施設までのアクセス道路の整備や、活動拠点施設の整備、防災基盤の整備により防災機能・利便性の向上を図る。</p>	<p>①道路(基幹事業…道路改良) ②地域創造支援事業(提案事業…地域防災施設整備事業) ③地域創造支援事業(提案事業…集会所事業)</p>
<p>・整備方針2 道路網の整備等による多彩な交流と快適な周遊観光を可能とする「もてなし」空間の創出 ①都市交流やボランティア活動など多彩な交流をする人々と、点在するそれぞれの観光スポットや施設等を繋ぐための道路環境整備により、もてなし空間の質の向上を図る。 ②地域の魅力を分かりやすく伝えるための展望地・交流活動やイベントのための広場整備をすることで、交流のにぎわい空間の質の向上を図る。</p>	<p>①道路(基幹事業…道路新設) ②地域生活基盤整備(基幹事業…広場) ③高質空間形成施設(基幹事業…道路美装化)</p>
<p>・整備方針3 観光産業の拠点及び情報基盤整備による魅力ある「にぎわい」空間の創出 ①新たな起業の拠点となる施設整備をすることで、魅力あるにぎわい空間の質の向上を図る。 ②海外来訪者へ魅力を発信するための観光情報基盤整備をすることで、地域の魅力発信力の強化を図る。</p>	<p>①地域創造支援事業(提案事業…チャレンジショップ事業) ②地域創造支援事業(提案事業…あすかナビ整備事業)</p>

## その他

- ・基盤整備と併せて地域自主防災組織の立ち上げや、防犯パトロールの継続的実施により、地域住民の防災への意識向上を図ることでより安全な生活環境を創出するとともに、地域伝統文化活動への支援を継続的に実施し地域伝統文化の継承を担保していく。
- ・道路整備等と併せて整備箇所周辺の商業施設の一層の活性化に向けた取り組みや、景観に対する住民活動を支援することで質の高いもてなし空間を創出していく。
- ・拠点整備等と併せて、地域住民と都市住民の交流やボランティア活動を推進することで、経済活動と社会活動が連動したにぎわいの創出を図るとともに、世界遺産登録に向けた取り組みの中で、地域住民が自らの地域の価値を再確認することで、村の魅力情報発信力の強化を図っていく。

飛鳥京地区(奈良県明日香村)

面積

527 ha

区域

明日香村大字小山、奥山、豊浦、雷、飛鳥、岡、島庄の全部及び明日香村大字檜前、御園、平田、野口、川原、祝戸、阪田、上居、細川、上、尾曾の一部

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。

